

SDGs学習指導略案

実施日 令和 年 月 日 (月) LHR 担当者

クラス 3年 組

テーマ SDGsの考え方を踏まえた田植え

使用教材

行事の目的 自然の尊さや偉大さを肌で体験し、天地自然に感謝する心を持つ

SDGsの目標 2 飢餓をゼロに 15 陸の豊かさを守ろう

行事の目的とSDGsがリンクした学びのねらい
 (1)大変な思いをして手植えをすることで、食べ物を作る苦労を疑似体験する。そして、日本の食を支えている人、諸外国に思いをはせ、自分の日常の食に対する態度を見直す。母体のオイスカが行っている農業支援について再度、確認する。(ゴール2のターゲット2.a)
 (2)水田があることで、陸の豊かさを守る働きがあることを知る。(地下水を浄化する、量を保つ・周辺の気温や湿度を適度に保つ・洪水や土砂崩れを防ぐ・生物のすみかを作り、生態系を維持する) (ゴール15全般)

本時の展開 田植えがSDGsに沿った行事であることを教える。今までの学校行事で学んできたことを顧みる。また、日常の食に対する態度も省みる。そして、田植えに積極的な気持ちで臨めるようにする。

	学習活動	指導上の留意点
導入 (10)分	SDGsに関する基礎知識を復習する 今年度から、学校での教育活動をSDGsに仕分けしていくことを確認する (田植えもその一つであることへつなげていく)	口頭だけの説明では注意力が散漫になるので視覚を使った資料を準備したい 教室の掲示物を使って、今年からのすべての活動がSDGsによって価値づけされていくことを確認。
展開 (30)分	日本の食料自給率・食品廃棄率・食品ロスなどの「食」にまつわるキーワードの数字や内容を答えさせる。 なぜ、残飯を出してしまうのかを考えさせる。 田植えはSDGsのゴール2を目指している学校行事であることを教える。 海外研修では、研修センターで取り組んでいる農業はターゲットの中のどれにあたるかを探させる。 もう一つゴールがあることを示唆し、考えさせる。 ゴール15である理由として、水田があることの効果を説明する。 (参考： www.oisika.or.jp/hp/a_and_s/guiden.htm)	教員からの投げかけをただ聞いているだけだと参加しないので、グループワークが好ましいが難しければプリントを用意して書かせたり、発表させたりする。 田植えはゴール何番かは生徒に答えさせる。(掲示物は事前に貼らない) 全員に手をあげさせる。(いくつかに答えを絞って、「○番だと思ふ人」) 環境について詳しい生徒がいるかもしれないので答えさせてもよい。
まとめ (5)分	行事の意味づけをする。	「ほとんどの生徒が人生最後の田植えになるだろう。この経験を生かして、将来、自分の子どもに『お父さんは、手で田植えしたんだけど、すごく大変だったよ。食べ物は全て大変な手間をかけてできているんだから、ごはんをのこしてはいけないよ』と言える親になろうね!」といったような、作業のモチベーションがあがる訴えかけ方をする。